

シリーズ 中学校武道

授業の充実に向けて

141

つまずきをどう克服したか³⁴
 (安価で簡易な竹刀と防具を使い、思考・判断する剣道授業)

東京都世田谷区立三宿中学校

世田谷区立三宿中学校では、2018(平成30)年度まで保健体育科の授業で柔道を行っていたが、19(令和元)年度より、剣道に切り替えた。

武道授業に剣道を採用する際の課題の一つが、竹刀や防具といった高価な教材の調達だ。同校は大学研究者が考案した簡易な竹刀などの教材とともに、教師が作成した安価な防具を使用。コストは実に市販の防具の20分の1で済んでいる。

今回は、三宿中で独自に発展させたユニークな授業を本誌記者が取材、剣道を通して生徒たちが「生きる力」を学ぶ様子を紹介する。



世田谷区立三宿中学校

1
剣道を通して「生きる力」を学ぶ

取材当日、はじめに記者は牧野英一校長から話を伺った。牧野校長は、本誌7月号「武道の可能性を探る」に寄稿している。

「武道を学校授業の教材として見たときに大切にしているものがあります」。牧野校長は快活に語り始めた。「最終的な目標は新学習指導要領にある『生きる力』の涵養です。あらゆるものが予測不可能なこの時代に、自ら課題を見つ

け、自ら学び、考え、判断し行動する力が一番大切です。剣道を含めた保健体育の教材はすべてそのための手段と捉えます。生徒には剣道を通して、それらの力を養い、国際的にも通じる人間に育つてもらえたらと思います」。自らも少林寺拳法を嗜んでいる牧野校長は「武道を教えることが主ではない」と説明する。教えることが主になると、どうしても詰め込み式になってしまう場合が多い。そうすると生徒は「指示待ち人間」になってしまふと指摘した。

三宿中の保健体育授業では教材の魅力を伝えながらも、その学びを通して、自らが考え、生きる力を養ってほしいとの一貫した考えがある。どの教材にも「何のために学ぶのか」という学習の意義が共有されている。最終的な目的は



三宿中の授業について説明する牧野校長

「生きる力」の涵養なのだ。インタビュの後、牧野校長の案内で体育館へ向かった。途中、牧野校長は「剣道授業を見た瞬間に驚くと思いますよ」と言いつつ、ニヤリと笑った。

2
100円ショップで材料を調達。手作りの剣道具

体育館に入ると、片隅の竹刀入れに何か棒状のものが立てかけてある。数十本はあろうか。ピンクや青色、黄色と、とてもカラフルだ。その右手の棚にはヘルメット。その対面の棚にはゴーグルとクッション性の高いマットがびっしりと折りたたんである。

「一般的に剣道授業の一番の課題は高価な防具にあります。それが原因で剣道をやりたくとも実施できない学校は数多くあると思います」。三宿中で武道授業を担当する兼平主幹教諭(剣道六段)は、剣道授業の最大の課題をそう分析する。兼平主幹教諭は同校で剣道を実施したいと考えていたが、や

はり高価な教材がネックとなっていた。そのため、100円ショップやホームセンターなどで購入できる安価な材料で作成した簡易的な竹刀と防具を使用して、19年度より剣道授業を開始した。

先ほどの棒状のものは簡易的な竹刀。棒状のプール玩具「浮き棒」に塩化ビニル管を差し込んで作った。材料はホームセンターや100円ショップで購入可能だ。

ヘルメットは面の代用だ。攻防が激しくなるとゴーグルも着用する。このゴーグルは草刈り用で数百円。大きいので眼鏡を付けながらも着用可能だ。

クッション性の高いマットは胴として使う。マットを4つに切つて、ガムテープで固定し、数カ所に穴を開けて紐を通した。

腕にはスポーツ用サポーターを2枚重ね、軍手を着用することで小手の代わりにした。兼平主幹教諭は「竹刀と防具を合わせて1式2千円以下で作成しています」と白い歯を見せた。教材用の防具一式が4万円程度であるのと比べる、その安さがわかる。

3
恩師が考案した簡易的な防具

この竹刀の考案者は流通経済大学教授の柴田一浩氏。兼平主幹教諭の恩師である。

柴田氏は日本武道学会剣道専門分科会で中学校武道授業に関する楽しい学習法などを発表している。また、愛知県西条市立東予東中学校での剣道授業を取り上げた本連載の18年10月号でも、同氏考案の簡易的な防具が紹介されている。

兼平主幹教諭の母校の中学校は剣道の強豪校。柴田氏は兼平主幹



面打ちを行う生徒たち



面打ちの模範を示す兼平主幹教諭



剣道の所作に倣い着座しながら竹刀を置く生徒たち

兼平主幹教諭が自ら作成した。取材当日は、男女共習による1年生1クラスの5回目の剣道授業であった。生徒は体育着に運動用シューズを履いている。素足でない剣道授業は珍しいのではないかと。指導内容に関する参考資料などはなく、兼平主幹教諭が独自に考案したものだそうだ。隣の体育室では1年生の別のクラスがダンスの授業を実施していた。三宿中では武道とダンスの授業を交互に実施している。

剣道の授業では、準備体操と補



面の代用となるゴーグル



簡易的な胴と小手を装着する生徒



簡易的な竹刀

表1 教材作成について
(発案者、それぞれの制作日数と単価、作成個数と苦勞・工夫した点)

	発案者	制作日数	単価	制作個数	苦勞・工夫した点
竹刀	流通経済大学 柴田一浩教授	3日	約200円	33個	スポンジに塩ビ管を通すことに時間がかかった
面	ヘルメット	1日	約1000円	33個	サイズ調整が容易な物を見つけること
	ゴーグル	1日	約200円	33個	メガネをつけても着用できる大きさの物を見つけること
小手	軍手	1日	約50円	33個	小手を軍手とサポーターにすることまでのアイデア
	サポーター	1日	約200円	33個	
胴	同	5日	約200円	33個	胴を安価で着用しやすい物にするまでのアイデア

4 教材の試行錯誤

教諭の中学時代の剣道部顧問である。兼平主幹教諭はその後も剣道が続け、教員となった。

6、7年前に、柴田氏が講師を務めた東京都の武道・ダンス研修会で再会。以来、恩師の指導法に触れた兼平主幹教諭は剣道授業を実施したいという思いが強くなった。そして18年度の全国学校体育研究大会で、柴田氏考案の安価で簡易的な竹刀が紹介された。それを知った兼平主幹教諭は19年度にその竹刀を使った剣道授業の実施を決意した。

竹刀と面については、柴田氏考案のものをそのまま採用。胴は兼平主幹教諭が独自に作成したものである。ホームセンターなどで購入できる、いわゆるブレイマツで作成した。当初は腹と胴の間に隙間ができ、授業中にずれてしまうことがあったが、改良を重ねて、ぴったり合うものを作成し

5 授業の実際

授業者は兼平主幹教諭1名。1・2年生を対象とし、年間8時間程度の授業を行う。指導計画は

だけで受けられます」。授業の最後は全員で剣道の所作の通り、着座しながら竹刀を置き、続いて小手、面、胴を置いて礼をした。整然としており、簡易的な防具でも所作が美しい。

次の授業では連続技、応じ技を行い、最終日に簡易的な試合を行ったそうだ。

6 思考・判断する 三宿中の剣道授業

三宿中では、安価な竹刀・防具を作成することで剣道授業を成立させた。授業では、必要最小限のことを学習させ、攻防のプロセスの中で生徒たちに思考・判断させて、必要な資質や能力が育まれるよう工夫する。

面打ち、それに対する受け方の実技で、兼平主幹教諭は「剣道は考えながらやらなければいけない。理屈さえ覚えれば必ず面白くなる」と生徒に伝えて、随所で「考えて行動すること」を促している。男子は勢いよく竹刀を振っている。「受ける側は竹刀を上げる

た。材料費はおよそ200円。「一番苦労したのは小手でした。19年の夏はホームセンターをかなり回りました(笑)」。安価で簡単に装着できることを優先して、たどり着いたのが、スポーツ用のサポーター2枚重ねに軍手のスタイルであった(表1参照)。

なぜ兼平主幹教諭はここまで熱意を持って教材開発に取り組むのか。実は牧野校長は東京都中学校体育連盟の副会長(研究担当)であり、兼平主幹教諭は同連盟研究委員会の副委員長である。同委員会では運動部活動や授業に関する様々な研究や教材開発を行っており、それを学校体育の教材にも還元しているのだ。つまり両氏は東京都の公立中学校において教材開発の中心的な存在なのである。

により、中学校武道授業実施においても早急な対応が求められている。三宿中では、以下の対策を講じ、2学期から剣道の授業を実施している。

8 三宿中の剣道授業における新型コロナウイルス対策

新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、中学校武道授業実施においても早急な対応が求められている。三宿中では、以下の対策を講じ、2学期から剣道の授業を実施している。

が比較的多い柔道以外の武道についての知識が、あまりにも少ないと感じます。剣道は、見たこともやったこともない生徒が非常に多いので、授業以外で、少しでも見たり体験したりする機会があると良いと思いましたが。

7 必要性の中で武道の精神・所作を指導

こうした簡略化された剣道授業において剣道・武道の精神や礼儀、伝統的な考えなどは理解され、身につくのであろうか。兼平主幹教諭は「自分も剣道をやってきましたので剣道をもっと知ってもらいたいとの気持ちはありますが、礼儀などは他のスポーツでも共通していると思います。決して武道が特別なものではないと思います」と答えた。

⑤用具の消毒
・面（ヘルメット）、小手（軍手・サポーター）、胴（スポンジ製胴）など、共用の用具については、授業後に消毒を行う。

④体育館での実施
・密の状況を避けるため、武道場ではなく、体育館で授業を行う。

③手洗いの徹底
・体育の授業後、生徒の手洗いを徹底する。

②シューズの着用
・裸足で授業を行うと汚れが付き不衛生なため、従来同様、シューズを着用する。

①フェイスシールドの着用
・同校は飛沫感染防止として、1学期に各教科の授業で使用するフェイスシールドを全校生徒に配布した。剣道の授業でもゴーグルの代わりとして活用できることから、これを着用する。

とはいえ、礼儀や伝統的な考えも必要に応じて指導する。授業終了時、防具を床に整然と置いて礼を行う所作は確かに美しいと感じた。限られた時間の中での武道授

業として最高のバランスではないだろうか。最後に両氏に三宿中学校の剣道授業について伺った。

業として最高のバランスではないだろうか。最後に両氏に三宿中学校の剣道授業について伺った。

兼平誠主幹教諭
「授業を通して生徒に少しでも剣道に興味を持ってもらえたらと思います。今後は（剣道専門以外の）誰がやってもできるような、学校全体で剣道授業を継続していきたいです」

牧野英一校長
「どの教材も根本にあるものはみな同じです。保健体育の最終目標は『豊かなスポーツライフを通して活力ある生活を送る』ことです。その授業を通じて剣道の魅力を伝えられたらと思います」

19年度の剣道授業が終了した時点で、兼平主幹教諭に改めて1年目の授業を振り返ってもらった。

(1)感想
・正式の防具や竹刀がないため、代用となるものを開発することから始まり、構想から完成に至るまで、約1年を要しました。

(2)課題
・用具については、安全性や機能性で改善の余地があります。特に、ゴーグルや胴については、改良中です。
・生徒は、テレビで目にする機会が少なかったため、授業が

柔道整復師の国家試験対策予備校

受験生の学習スタイルに合わせたコースをご用意しております。

昼間コース

週6日午前中の通学で徹底対策

夜間コース

週3日夕方からの通学で徹底対策

日曜コース

月2回、日曜日に徹底的に国試対策

通信制コース

通学しなくてもできる国試対策

ジャパン模試

【柔道整復師 国家試験出題基準】に沿った模試問題です。東京・大阪・仙台・名古屋では会場を設けて実施しております。

株式会社ジャパン国試合格

代表取締役 三田 利幸
校長 樗澤 隆治

東京都港区芝浦4丁目12-44 芝浦TMビル7階
JR山手線・京浜東北線『田町駅』下車

TEL : 03-5287-6301
FAX : 03-6809-6670
MAIL : info@jkokushi.jp

http://www.jkokushi.jp/
詳しくはこちらから▶

